

# 京都府漁海況情報

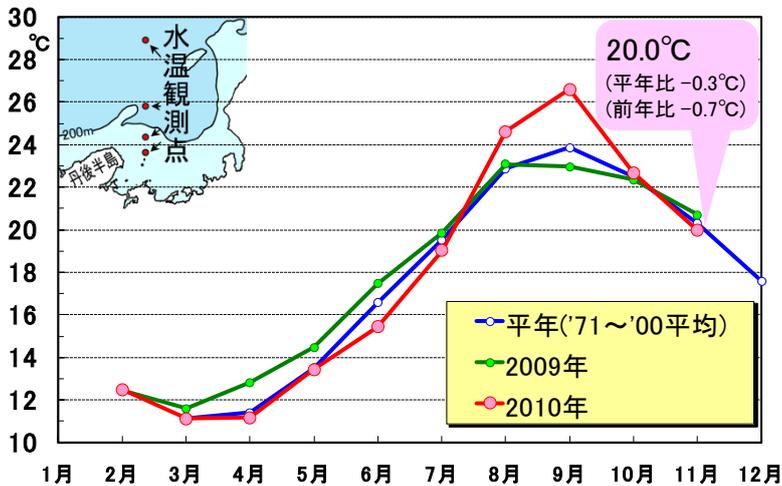
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部  
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>  
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

## 海の状況

### 【現況】

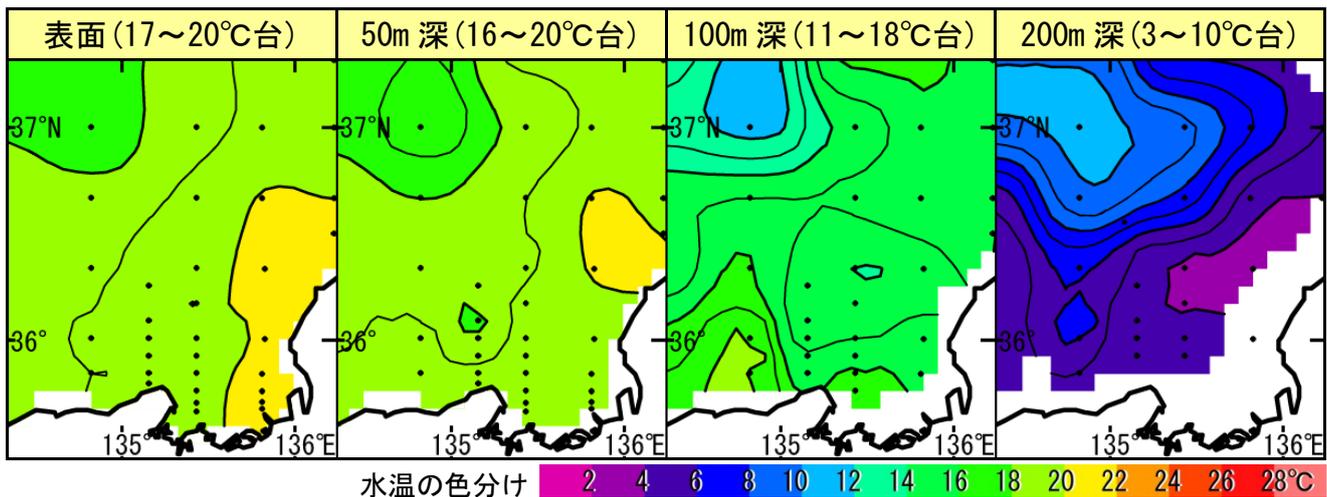
11月上旬における京都府周辺の表層水温は、ほぼ平年並みで推移していました。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2010年11月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



### 【今後の見込み】

資料元：(独)日本海区水産研究所, 気象庁, 九州大学応用力学研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し*	「平年よりやや弱め」で推移する見込み

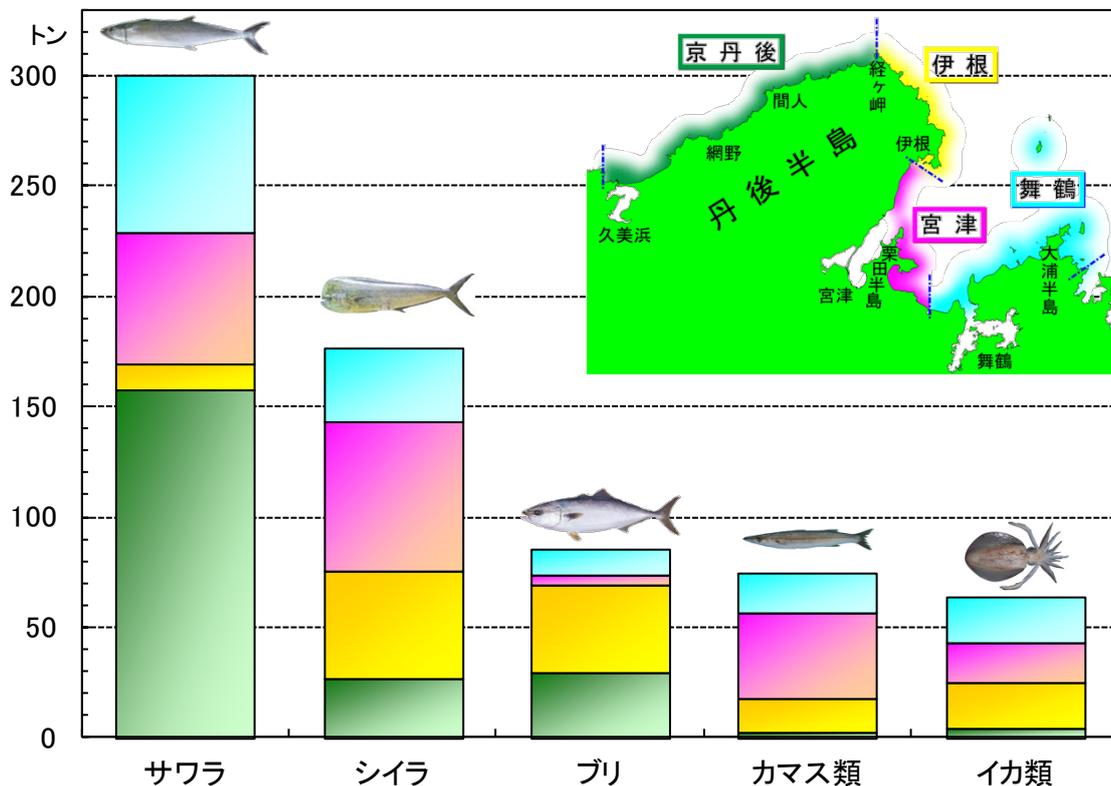
\*冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

# 漁模様 ～2010年10月～

## 【定置網漁業】

魚種による好不漁の差はあるものの、全体では前年および平年並みの水揚げでした。

2010年10月の地域別漁獲量(上位5魚種)



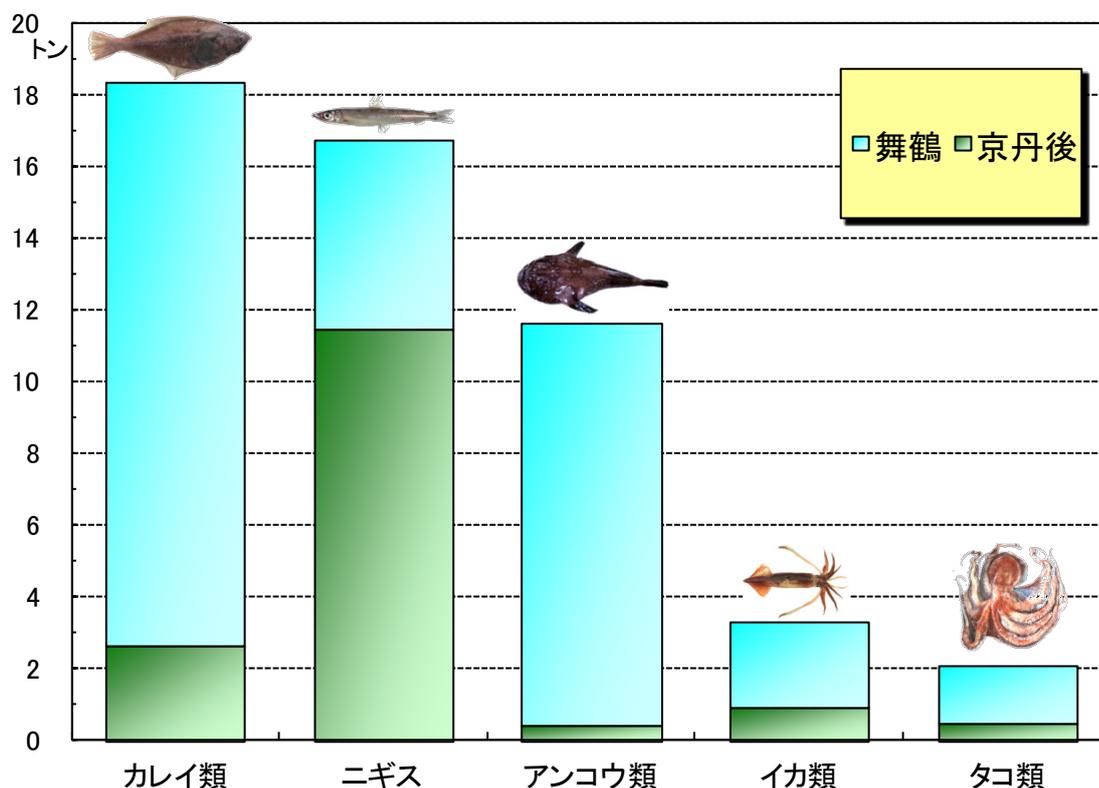
10月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)	備考
サワラ	300.3	208.3 (144%)	180.6 (166%)	<サワラ>
シイラ	176.7	57.8 (306%)	69.9 (253%)	さごし銘柄(尾さ長 34~47cm 主体)でほぼ占められ、さわら銘柄(尾さ長 60~75cm 主体)は若干量でした。
ブリ	85.9	290.3 (30%)	148.0 (58%)	<ブリ>
カマス類	74.9	41.6 (180%)	35.6 (211%)	つばす銘柄(尾さ長 30~40cm 主体)が9割以上、残りははまち銘柄とまるご銘柄でした。
イカ類	64.2	16.6 (385%)	35.8 (179%)	<イカ類>
カワハギ(丸はぎ)	60.2	27.2 (221%)	26.3 (229%)	アオリイカ(秋いか)が48.2トン、ケンサキイカ(白いか)が12.7トンなどでした。
マアジ	37.7	112.7 (34%)	180.7 (21%)	
カツオ類(そうだがつお)	22.9	0.3 (7517%)	22.1 (104%)	
カジキ類	17.8	1.6 (1114%)	2.5 (720%)	
シロサバフグ(さんきゅう)	17.8	1.7 (1042%)	15.9 (112%)	
その他	97.4	231.6 (42%)	242.9 (40%)	
合計	955.9	989.9 (97%)	960.3 (100%)	

平年は過去10年平均

## 【底曳網漁業】

ニギスが例年より少漁で、全体では平年および前年の7割弱の水揚げでした。

2010年10月の漁獲量(上位5魚種)

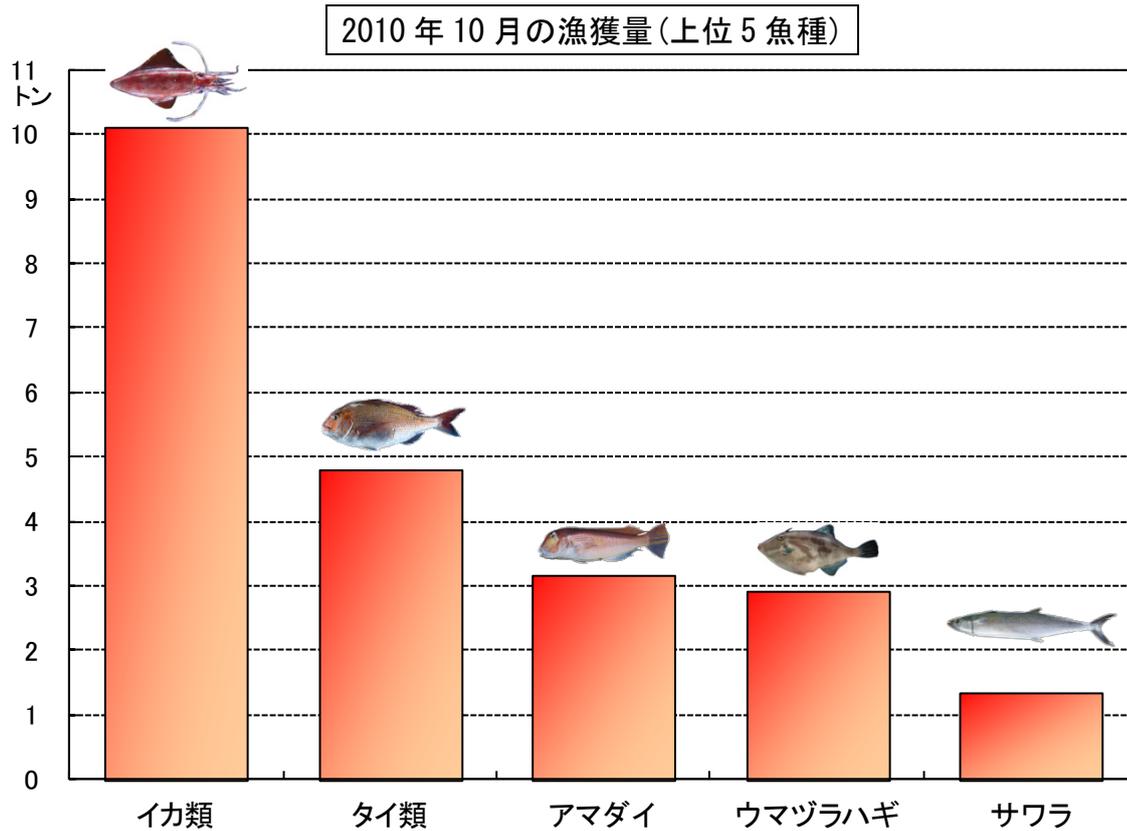


10月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)	備考
カレイ類	18.4	25.0 (74%)	24.2 (76%)	<カレイ類> ヤナギムシガレイ(ささがれい)が7.5トン、ムシガレイ(みずがれい)が3.3トン、ソウハチ(えてがれい)が3.1トン、アカガレイ(まがれい)が2.8トンなどでした。
ニギス(沖きす)	16.7	44.8 (37%)	39.3 (43%)	
アンコウ類	11.6	5.2 (221%)	9.1 (128%)	
イカ類	3.3	1.5 (226%)	3.0 (111%)	
タコ類	2.1	2.3 (89%)	2.5 (84%)	
タイ類	1.9	3.9 (48%)	3.7 (50%)	
エビ類	1.2	2.5 (47%)	0.7 (171%)	
マトウダイ類(ぼと)	1.0	1.5 (71%)	1.3 (83%)	
メバル類	0.4	0.2 (188%)	0.2 (196%)	
タラ類	0.3	0.8 (46%)	0.2 (225%)	
その他	5.3	8.5 (62%)	10.1 (53%)	
合計	62.2	96.1 (65%)	94.2 (66%)	

平年は過去10年平均

## 【釣り・はえなわ漁業】

イカ類の釣獲が例年より少なく、全体では平年の約6割の水揚げでした。

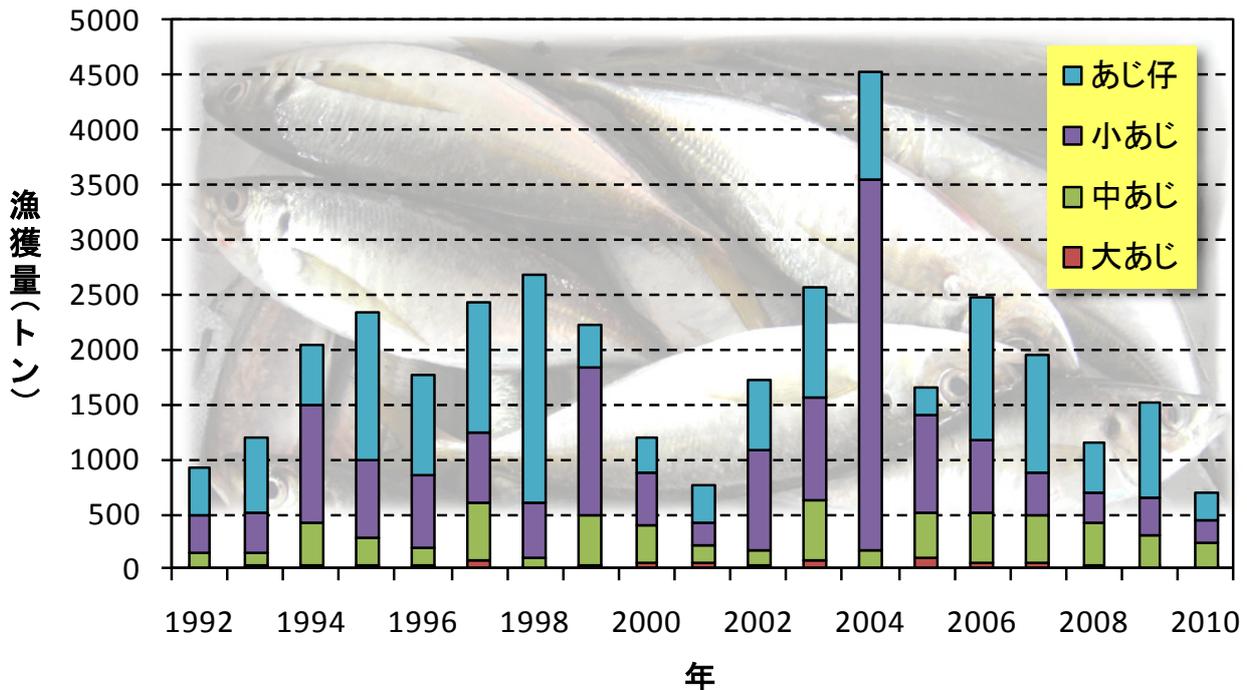


10月漁獲量(トン) 京都府漁連集計						
魚種	2010年	2009年(前年比)		平年(平年比)		備考
イカ類	10.1	12.1	(83%)	29.0	(35%)	<タイ類> レンコダイ(尾さ長 15~20cm 主体)が約6割強、マダイ(尾さ長 24~29cm 主体)が4割弱でした。 <イカ類> ソデイカ(たるいか)が5.3トン、ケンサキイカ(白いか)が3.1トン、アオリイカ(秋いか)が1.5トンなどでした。 <アマダイ> 体長25~27cmが主体でした。
タイ類	4.8	4.5	(107%)	3.9	(124%)	
アマダイ(ぐじ)	3.2	2.7	(116%)	3.2	(98%)	
ウマヅラハギ(長はぎ)	2.9	1.5	(189%)	1.8	(166%)	
サワラ	1.4	1.8	(74%)	1.4	(96%)	
ブリ	1.1	1.0	(103%)	1.9	(55%)	
メバル類(もいお)	1.0	0.5	(193%)	0.4	(247%)	
アジ類	0.7	0.9	(78%)	0.7	(99%)	
メダイ(たいしょうお)	0.2	0.4	(66%)	0.5	(46%)	
タチウオ	0.1	0.1	(56%)	0.3	(25%)	
その他	2.7	1.8	(153%)	3.3	(82%)	
合計	28.2	27.4	(103%)	46.4	(61%)	

平年は過去10年平均

## 【トピック ～マアジの不漁～】

丹後の重要な水産資源であるマアジの漁模様がよくありません。今年の1月～10月までの定置網漁獲量は684トンで、近年の同期間と比べると最も少漁で推移しています(下図)。



近年のマアジ漁獲量(各年の1月～10月合計)

原因の一つとして、この春はマアジの漁場形成の目安とされる水温 15～16℃以上に達するのに例年より半月以上遅い5月下旬までずれ込んだことで、魚群の来遊が遅れたり阻害されたりしたのではと考えられています。ただ、夏季以降には例年より高め～例年並みの水温で推移するも漁況は低調なので、他の原因もありそうです。

なお、水産庁は今年11月から来年3月までの日本海へのマアジ来遊量を前年並みとしており、今後の漁模様の好転を期待したいところです。